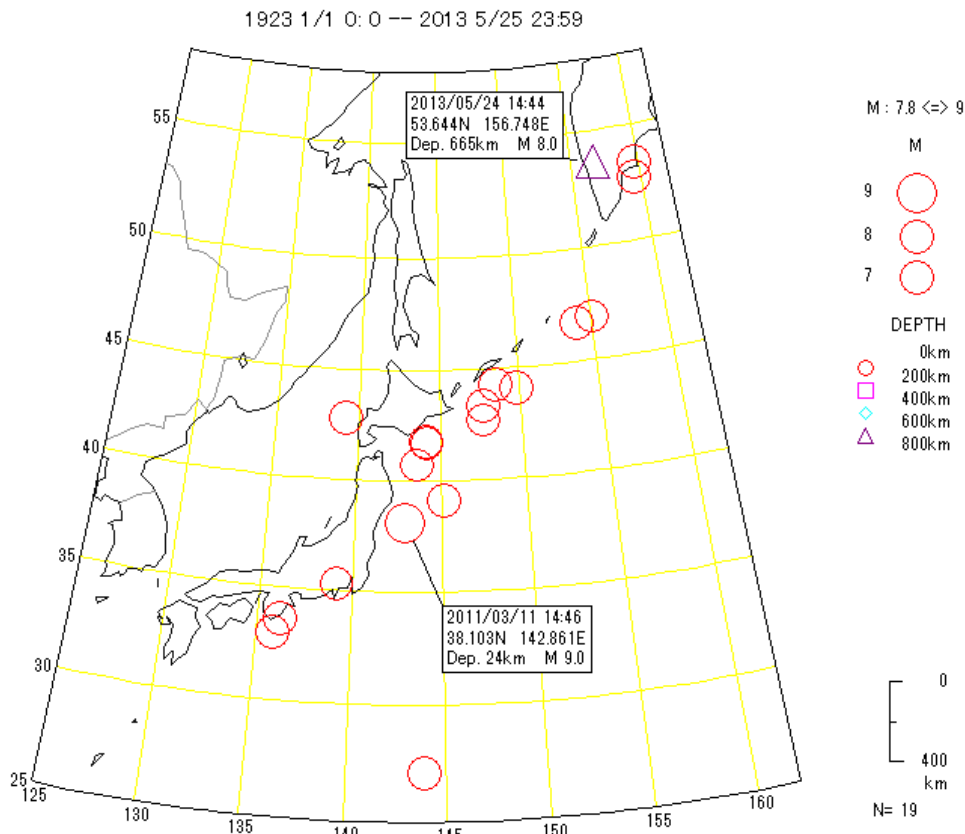


5月24日のカムチャッカ半島付近の深発地震と中部・近畿地方の最新の状況

5月24日、マグニチュード8の地震がカムチャッカ半島付近で発生しました。一般に地震には浅発地震（ほとんどの地震がこれです。深さ10kmから60km程度で発生します。東日本大震災も現在危惧されているアウターライズの地震もこの浅発地震です）、やや深発地震（深さ60-100km程度で発生）、深発地震（それよりも深い所で発生）等と分類されます。ちなみに地球で一番深い所で発生する地震は深さ約700kmとなっています。

今回の地震は深さ650km以上と、極めて深い（=つまり遠い）所で発生しました。そのため規模の割に被害は発生しませんでした。

実はこのような規模の大きな深発地震は気象庁が観測を開始した1923年以降、初めて観測されたものです。換言すれば、こんなに大きな地震がこのような深さで発生した事はこれまでありませんでした。これもある意味“想定外”の出来事でした。やはり3.11により、極東地域全体の地震発生の様式に我々の知らない変化が起きていると推察されます。



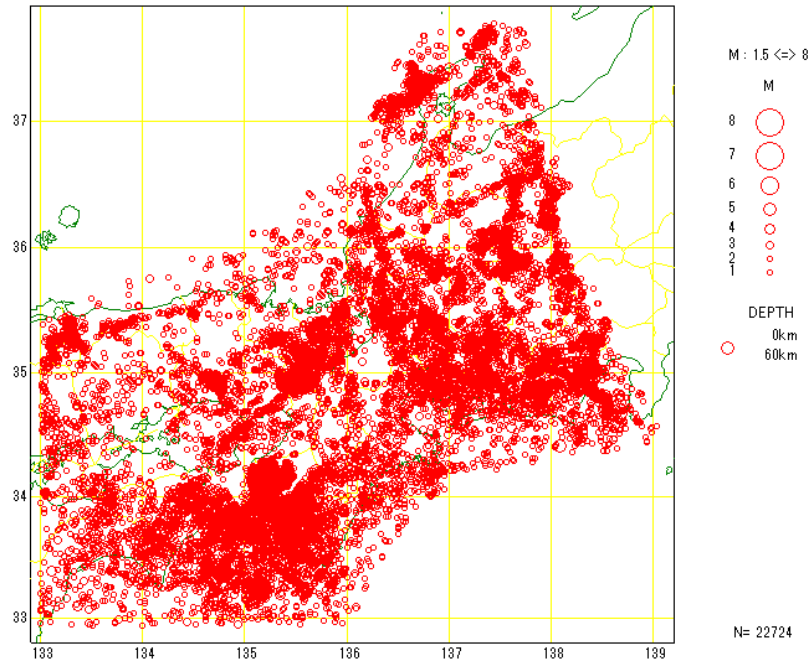
△が5月24日の地震。1923年以降のマグニチュード7.8以上の地震を全て図示。それ以外の地震はすべて100kmより浅い所で発生している。今回が初のケース。

中部・近畿地方の地下天気図

中部・近畿地方について、特に陸域にターゲットを絞り解析を実施してみました。従来は緯度・経度の値で、海陸関係なく地震のデータを解析に使っていましたが、今回は特に陸域に特化した解析を行ってみました。これまでの経験から、糸魚川—静岡構造線（フォッサマグナとも言います）を境に地殻変

動や地震活動の様式が異なっている可能性の高い事から、次ページに示した領域のデータを使用して解析を実施しました。なお解析に使用したのは2001年以降のマグニチュード1.5以上の地震です。

2001 1/1 0:0 -- 2013 5/25 23:59



### 5月26日時点の地下天気図

現時点で中部地方には異常は観測されていません。兵庫県を中心とした青い領域（静穏化領域）は今年3月11日の情報でも観察されていたものですが、まだ現象が進行中という事と、領域が比較的狭い事から現時点で深刻な異常とは判断していません。今後もこの京都・大阪・兵庫にかけた異常については継続的に監視してまいります。

